

# 愛媛県農業共済組合 (NOSAI えひめ)

## 1. 愛媛県の紹介

愛媛県は、四国の北西部に位置し、北側を瀬戸内海、南西部はリアス海岸が続く宇和海に面しています。海域には36の有人島を含む大小さまざまな270もの島があります。

県の地形的特徴ともなっている佐田岬半島は、全長約40kmの日本一細長い半島で、航路で大分県と結んでいます。

陸地部は、東部が香川県と徳島県、南部は高知県と接しています。県土の7割を森林が占め、県中央部には西日本最高峰の石鎚山（標高1,982m）や、県南部には日本三大カルストにも数えられる四国カルストが広

がるなど、海・山どちらも雄大な自然に恵まれています。

面積は約5,676km<sup>2</sup>で全国では26番目。県を大きく分けると、東隣の香川県に近い東予、松山を中心にした県の中央辺りの中予、県の南、宇和海に面した南予の3つの地域となり、それぞれ工業・経済・農業とバランスよく発展しています。

人口は約131万人で、全国では28位。四国地方の中では第1位となっています。市町は、11市と9町の「20市町」となっています。

四国八十八カ所巡りをするお遍路さんへの接待など、おもてなしの心が根付いていて、穏やかな県民性と言われています。

「愛媛みかん」や日本最古の温泉地である道後温泉は県内外の多くの人々にも親しまれ、夏目漱石・正岡子規・大江健三郎など日本文学にゆかりのある土地としても知られています。



## 2. 愛媛県の気候

愛媛県は、日照時間に恵まれた温暖な気候です。

東予・中予地方の瀬戸内側は、太平洋側に比べ降水量が少なく、温暖少雨な地域です。

南予地方の宇和海側は、瀬戸内側と比べると降水量は多く、四国山地ではさらに多くなっています。

## 3. 愛媛県の農業

令和2年の農業経営体数は21,734経営体で、平成27年より5,254経営体減少し、依然経営体の減少が進んでいる状況です。

農業産出額は、昭和59年の2,108億円をピークとして以降は減少傾向であり、令和元年は1,207億円となっています。

100億円以上の農業産出額をあげているものは、みかん（257億円）、米（152億円）、豚（110億円）で、全国と比較すると米の割合が少なく果実の割合が大きくなっています。

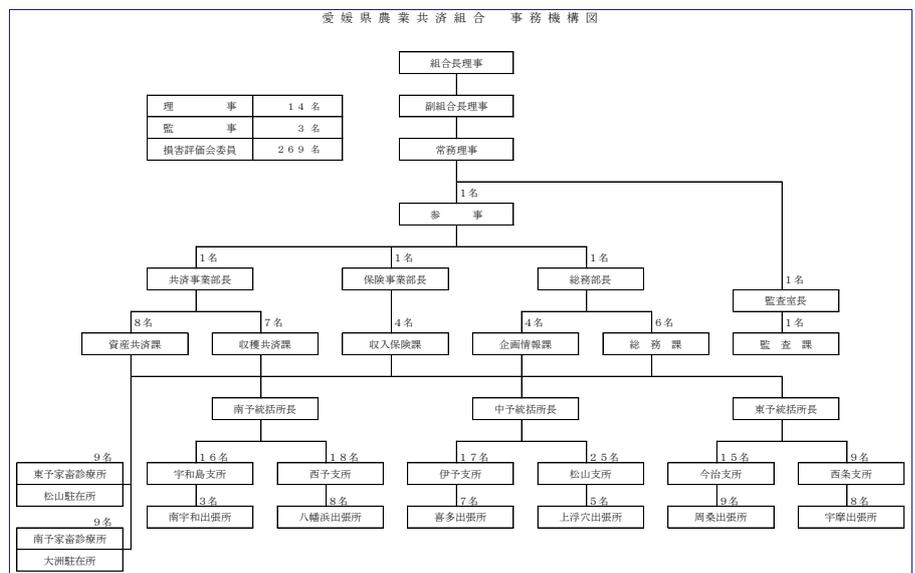
生産量で全国シェアの高い農産物は、日本一の「裸麦」、「いよかん」、「ポンカン」

のほか、「キウイフルーツ」、「栗」などです。

※ 県では、平成18年から優れた農林水産物及び加工食品を「愛あるブランド産品」「愛媛産には愛がある」に認定することにより商品価値を高め、消費や販売拡大を図っています。

## 4. 愛媛県農業共済組合（NOSA I えひめ）の概要

NOSA I えひめは、農業保険法に基づき農業保険制度の実務を担う団体で、平成27年5月に県内6組合と連合会が1つになり、特定組合「愛媛県農業共済組合（NOSA I えひめ）」が誕生しました。その後、令和4年度の機構改革で、本所と6支所・6出張所、家畜診療所を2診療所・2駐在所として事業を実施しています。



- 所在地：(本所) 愛媛県松山市二番町4-4-2
- 電話番号：089-941-8135 (代表)
- 理事：14名
- 監事：3名
- 職員数：193名 (令和4年4月1日現在)

## 5. 愛媛県農業共済組合の活動

農業共済制度は昭和22年の発足以来、農業経営の安定と地域経済の発展に大きな役割を果たして参りました。近年、自然災害の規模拡大をはじめ、農業を取り巻く環境が大きく変化するのに伴い、農業共済組合の果たすべき役割も従来の災害に対する補償に加えて、災害以外の要因による収入減少の補てんや、農業者の新たなチャレンジを後

押しする新しい役割を担うことが必要となり、重要性がさらに増しております。

自然災害のみならず農産物価格の低下なども含めたさまざまな農業収入低下のリスクに対応する収入保険制度及び農業共済制度が農業経営のセーフティネットとして地域農業の発展に貢献できるよう取り組んで参ります。